

除草班班長羽田雄二さんが語る

皆

とつづくに最前線で闘ってますよ。と羽田班長が笑う。そうか、もう3月下旬(取材日)ですね。「初めは事務だったんですが、外がやりたくて10年前から除草班にしました。」それで班長に?「会社で長く給料計算などしていた関係で数字が苦にならないのですね。」除草に数字が必要?「仕事に掛かるまえ費用見積りが要るんです。依頼を受けたら下見を行い就業人数や所要時間、必要な器材などお客様に説明し、ごみ処分費なども加えて経費を算出します。」なるほど、どんな経験もシルバーでは役立ちますね。「ただ仕事を会員に割り振る調整、これは経験がなかった。単発班は1人でもできますが、除草班では仕事の規模が大きくなるので複数の人数が必要です。誰と誰を組み合わせるかは各班の副班長の協力ですが、一つのエリアに仕事が集まる場合もあって、各班で融通しあう調整が必要になります。」人手不足が問題?「まえば80人くらいいたけど今は51人。繁忙期には残業になるケースや、単発班、植木班から人手を借りるケースも出てきます。会員には平和的な人、個性的な人、色々あって組み合わせも簡単じゃない。でもそれもシルバーの面白いところだと思います。」シルバーという人材の海に、羽田班長は趣味の海釣りの釣果を見ているのかもしれない。

秋元ヒサ子さんと矢島美津子さんが語る

俺

俺

とお前は草刈り仲間草もない七巡り...秋田草刈り唄がふと浮かんできた。秋元・矢島ペア、共に80代の草取り仲間だ。このペア、何かと共通点がある。何と朝7時半から草取りに出動する。足は共に1馬力のマイカー。お客様に迷惑をかけないようにその時間に門を開けておいてと前もって頼んでおくそうだ。ご亭主に先立たれたところも似ている。秋元さんは白井に借りた菜園に夫婦で通い、草取りや収穫を共にするのが楽しかった。夫がシルバーに入会したので自分も参加。10年ほど一緒に働いたが2年前夫が急逝。夫唱婦隨の夢のような時間が突然に絶たれた。一時はシルバーをやめることも考えたがセンターの人に励まされ思いとどまった。一方、矢島さんの方は農家の出だが草取りなどしたことがない。家で夫の植木を手伝ったくらいで、シルバー入会時、「除草って?」と訊ねたという。子供二人は独立し今は団地で悠々自適だ。シルバーは矢島さんの方が先輩だが、秋元さんはしばしば「一緒にやって」と矢島さんに声をかける。独りでやるのは淋しいからが理由だが、そのくせ仕事中はほとんど会話しない。その反動か、家の雑用が落ち着いた頃、どちらからともなく受話器を取り、時に2時間超の長電話に及ぶというから凄い。「夫には今でも熱愛中」と言い切る秋元さんの楽しみは市民会館でのコーラス練習。きれいにハモれば天の夫に届いている証拠と信じている。朝7時、秋・矢ペアの新たな一日が始まる。

以上取材/山崎編



小林寛仁さんと野崎自義さんが語る

A

家裏の丈高い雑草と格闘中の小林さん(副班長)と野崎さんコンビ。機械でやるので難なく攻め落とせそうだが、「30平米あるんでね」と小林さん。やはり広さが問題で、刈り取った後の地面の小草取り、後始末まで入れると結構手間がかかる。昼食時の僅かな時間にお話を伺った。小林氏は若いころ親戚の工務店で働いたので器材を扱う除草班は問題ない。昭和14年浅草生まれ(筆者と同年)。すると東京大空襲に?「遭いました5歳の時かな。焼夷弾に追つかけて隅田川に飛び込んだ。皆命から逃げ惑うしまつで誰からも助けてもらえず、16時間水に浸かってました。」祖母と牛久へ疎開し、戦後は柴又、小岩と移り住み...しだいに小林さんは饒舌になる。参議院宿舎の清掃トラックの運転手を30年、と話したところで仕事に戻って頂いた。家に帰れば金魚とメダカが待っているそうだ。相方の野崎さんは若手は宮古市のご出身。東日本大震災は?と訊ねると「私はもうこっちにいたので。実家は無事でした。」野崎さんは集団就職で上京。以後東京と郷里を往來し、鉄筋組立や解体の仕事に長く携わり、トビもやった。最後は旭化成に落ち着いた。体を張った多様な経験が雪折れしない強靱な人間を作り上げたようだ。集団でも一人でも仕事は苦にならないので「除草は自分に合ってる」と感じている。大事なものは?「健康、仲間、仕事」と即答。楽しみは「風景のスケッチ、大したもんじゃないけど」、いや大したもんです。絵心皆無の筆者にとって絵を描く人はすべて芸術家で、ほんと。

単発作業班の雑草取り

『ある会員の日記』

4月4日 センターより雑草取りの委託事業を受け、依頼内容を確認。お客様に電話連絡して下見の日時を打ち合わせる。4月5日、お客様宅を訪問し作業実施の曜日等要望を確認。作業現場を確認した結果2人作業が必要と判断。お客様の了承を得、その場でパートナーに電話し協力を得る。双方の都合をすり合わせた結果、4月18日10時作業開始後、2時間程度の作業となる事お客様へ確認。その旨事務局に電話報告する。

4月18日 9時50分お客様宅を訪問。お客様の了解を得て自転車を玄関脇に駐車させていただく。パートナーと役割を分担。危険箇所、(有害場所)など情報共有して作業開始。作業中は互いに声を掛け合い、休憩時間に水分を補給。護岸からの蕨の処理に手こぼれが予定通り12時前に作業終了。隣家との境界線部分の雑草も処理した旨お客様へ伝え、感謝される。終了状況の確認を依頼。「ありがとう」の言葉とともに就業報告書に承認の署名をいただく。作業後の「ありがとう」を大切に お客様のご依頼に添えるべく精進していきたい。

3班 山本博之

Before

After

